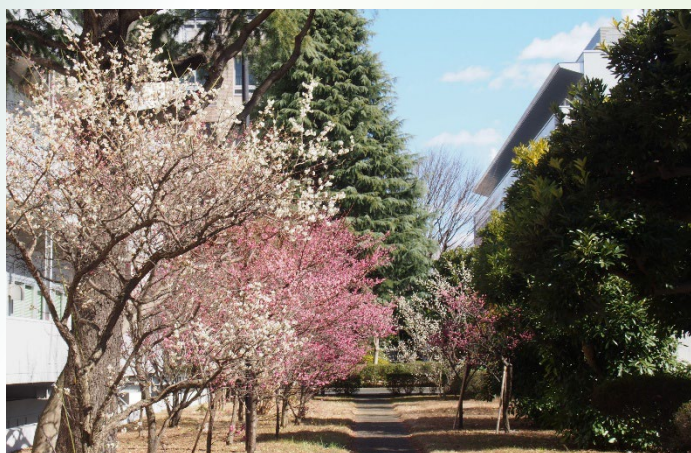




船橋校舎の早春の花々
上：紅梅，中：白梅，下：ロウバイ



工 化 時 報

第41号



Since 1938

MAC
DEPARTMENT OF
**MATERIALS
AND
APPLIED
CHEMISTRY**

工化会会長あいさつ

工化会会長 伊藤和宏

(昭和 59 年修士修了)



工化会会員及び関係者の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。日頃は、工化会活動にご理解とご協力を賜り、誠に感謝申し上げます。2025 年は、何事もなく穏やかに年が明けましたが、昨年の年始に発生いたしました能登半島地震をはじめとして、台風及び豪雨などの多くの予期せぬ自然災害が発生し、被災された方々には、改めて心よりお見舞い申し上げます。復旧・復興への道のりはまだ半ばですが、一日も早い再建をお祈りいたします。また、巷では、新型コロナウイルスの感染がくすぶる状況の中でのインフルエンザの感染が広がっています。皆様、感染には十分に気を付けご自愛ください。

さて、本学の状況ですが、2024 年 4 月に日本大学再建に向け、学長に理工学部電気工学科卒の大貫進一郎先生が就任されました。(→詳細は、第 107 号「桜工」をご参照ください) 誠におめでとうございます。と共に、本学の信頼回復と改革に期待しております。

2024 年 5 月には、建築界の最高峰である“プリツカー賞”を理工学部建築学科ご卒業の山本理顕氏が受賞されました。(→詳細は、第 107 号「桜工」をご参照ください) 誠におめでとうございます。

次に、2024 年度の工化会の主な事業活動についてご報告させていただきます。

- (1) 2024 年 6 月 1 日、通常総会を昨年度と同様に対面にて 394 名(内委任状 302 名)の出席により開催いたしました。出席された会員皆様のご協力により、すべての案件ならびに報告事項が滞りなく「承認」されました。有難うございました。
- (2) 通常総会終了後、ホームカミング含めた懇親会を開催いたしました。昨年度より、多くの卒業生が参加されました。なお、ホームカミングにご招待いたしました対象は、コロナ禍の影響でホームカミングデーを開催できなかった期間を含め還暦を迎えられた 1983 年～1987 年に卒業した方々です。
会員同士の久しぶりの再会も重なり、また現役の学生お

よび教職員との親睦を深める機会となり、盛大な宴となりました。昨年同様に、「人との交流」の重要性と継続の必要性を感じました。今回初めて参加された皆様、是非、来年度の総会、懇親会にもご参加いただきますようよろしくお願い申し上げます。また、通常総会、懇親会に一度も参加されたことがない会員の皆様、楽しい一時を一緒に過ごしてみませんか。

(3) 工化会 在学生支援活動について

今年度も引き続き、「工化会学生メンバー交流会 2024」を開催いたしました。

- ① 第 1 回 2024 年 6 月 29 日、駿河台校舎にて、全学年を対象に、学生生活等について若手卒業生とワールド・カフェ方式で意見交換を実施いたしました。
- ② 第 2 回 2024 年 11 月 23 日、駿河台校舎にて、大学院進学希望者および大学院生を対象に、大学院修了生からの講話と社会人生活等についてグループワークによる意見交換会を実施いたしました。
- ③ 第 3 回 2025 年 3 月 1 日、駿河台校舎にて、次年度から駿河台校舎で学ぶ学部 1 年生を対象に、学部 2 年生以上の学生からお茶の水周辺地域での生活（学習、生活）について情報提供をしていただきました。

いずれも、活発な意見交換ができた場となり、その後の懇親会にも教職員および工化会役員の関係者も参加され、親睦を深められたことが、参加された学生にとっては、いくらかは不安感を解消できたのではないかと感じました。昨年に引き続き、企画、運営をしていただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。

また、他の事業活動としては、各種講演会の開催、新入生オリエンテーションにおいて化学実験等で使用する「保護メガネ」の贈呈、等を実施いたしました。

最後に、2025 年の干支は、「乙巳（きのと・み）」だそうです。「乙(きのと)」は、困難があっても紆余曲折しながらも前に進むことや、新たな芽吹きや成長の始まりを意味しているそうです。「巳(み)」、すなわち蛇は、脱皮を繰り返して成長することで“再生と変化”を意味しているそうです。新たに旅立つ卒業生の皆様、新社会人としての成長を期待しております。また、会員の皆様のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

なお、引き続き、工業化学部会へのご理解とご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

以 上

令和 6 年度 就職状況



応化進路指導委員会

委員長 清水 繁

令和 6 年度の就職状況について報告いたします。令和 7 年 1 月下旬時点で進路決定率は、学部卒業予定者は 91%、大学院修了予定者は 97%となっています。昨年度の同時期とほぼ同様となっています。今年度の求人件数も好調でいわゆる売り手市場が続いていました。今年度は内定が出始めた時期が、昨年度よりも一月ほど早まっているためか、進路決定率の増加が早期化しています。インターンシップなどの就職活動以前の活動の影響が大きいものと思われ、ますます就職活動開始時期が早まってくると予想されます。

令和 7 年度の修了、卒業予定者に対しての就職活動支援として、今年度も「夢実現プロジェクト」を CST ホールにて 12 月 5 日(木)午後に開催しました。例年通り、企業ブースを会場一杯に確保し、46 社の参加による対面方式で実施しました。学部 3 年生はキャリアデザインという科目の一環としてのイベントでしたので受講者全員が参加しました。また、博士前期課程 1 年生の参加は任意ではあるもののほぼ全員が参加し、総勢 200 名を越えるイベントとなりました。参加企業の多くは、当学科、専攻の卒業生も多く、当日は人事の方と共に企業の説明はもとより仕事の面白さなど、後輩に対して生の声として伝えていただき、これから本格的な就職活動に臨む学生には良い経験になったのではないかと思います。

毎年、このイベントに参加いただいた企業に就職する学生もいるので、就職活動の体験から就職活動そのものとなる側面も多分にあり、学生の進路の選択肢を広げられ、良い結果となることを期待しています。

大学院物質応用化学専攻への進学予定者は 50 名を越えています。年度により多少の波はあるものの、近年では概ね 3 割程度の進学率となっています。国公立大学の理系では進学率が 8 割程度と高く、修了後の進路は研究開発職が多くなっています。研究開発職の求人は、大学院修了を前提にしてい

ることが多いので、研究開発職へ進むために当学科でも進学率を高くすること、修了後の就職先を開拓、確保することが進路指導委員会の重要な使命のひとつとなっています。また、他大学の大学院に進学する学生もありますが、当専攻の魅力をよりアピールしていく必要があります。

令和 7 年度の就職活動も例年通り 3 月に解禁ということにはなっていますが、前述したとおり水面下では既に始まっていると考えた方が実質的と言えます。インターンシップなどを通して優秀な学生の早期確保が始まっているので、2 年生への啓蒙活動にも力を入れていかなければならないと認識しています。さまざまなチャンネルを通じての就職活動が展開されているので、学生は適宜対応せざるを得ないので現状です。

進路指導委員会では、進路決定率 100% に向け最善を尽くしておりますが、工化会の皆様にも多くの学生を受け入れていただけるようご協力頂けると幸いです。



写真：12 月開催
夢実現プロジェクト



多くの学生が
参加し、大盛況
でした。

～アイディアを財産へ～



かもめ 特許事務所

Kamome Patent Attorneys Office

231-0005 横浜市中区本町 1-7 東ビル 4 階

平成 10 年卒 弁理士 荒井 滋人

info@kamomepat.com TEL: 045-319-4466

クラス会・同窓会の報告

昭和 42 年工業化学科卒業生同期会の報告

令和 6 年 10 月 5 日(土)12:00~14:00 お茶の水 1 号館 2 階カフェテラスにて工化 42 同期会を開催致しました。

昭和 42 年の卒業生は総勢 150 名でした。すでに逝去された方 24 名と住所の、分からない方 30 名を除いた 96 名に通知を出しました。そのうち 3 名は不在返信、7 名は親族の方から死亡の連絡がありました。残り 86 名の内 49 名から近況報告が届きました。37 人の方は残念ですが回答をいただけませんでした。

猛烈な暑さを引きずった 9 月も過ぎ、漸く 30℃を下回りはじめ秋を告げる雨が降る中、57 年前の卒業生達があ頃とはすっかり様子の変わったお茶の水駅前の池田坂をゆっくりゆっくりとした足取りで集まって参りました。集まったのは 14 名。80 才の坂を越えて何だかみんな少し縮んだなァという印象は拭えません。不思議なもので話が始めると、その床屋も躊躇する薄い頭髪の顔が 60 年前と同じに見えて参ります。外見とは別に 60 年前のように直ぐにでも一緒に走りだせそうな活気に溢れて参りました。あ頃のこと、今の老々の暮らし、卒業してからのこと、ワイワイと楽しい懐かしいひと時を過ごしました。

しかしながら本会も全員が 80 才を越え体力的に集まるのが困難になって参りました。57 年前、日比谷パレスホテルでの卒業謝恩会で約束したこの会も、8 回目を迎える今回をもって残念ながら終回とすることに致しました。

なお、寄せられた近況と、会でのスピーチは文集にして希望する方に配布致しました。

【幹事】

柳脩一郎、栃木勝己、彦坂祥三、井上忠泰、香取省二、今田雅躬



第 6 回有機合成化学同窓会総会 開催報告

令和 6 年 10 月 19 日(土)、コロナ禍明け第 2 回目となる第 6 回有機合成化学同窓会が開催されました。本同窓会は OB・OG が旧友との再会や懇親を図るだけでなく、現役学生と交流を持つことで、相互に利益を共有し同窓生としての「絆」を深めるものであります。第 6 回目の今回は、第 5 回開催の反省を生かし猛暑を避けるべく 10 月中旬に企画されましたが、真夏日での開催となってしまいました。猛暑にもかかわらず、当日は前回の約 1.5 倍の 122 名の OB・OG・現役学生が集い、1 号館 2 階カフェテリアで約 3 時間の楽しい時間を過ごしました。

本年も 10 月に第 7 回総会を開催予定でありますので、友人をお誘いあわせのうえ、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

また、昨年行われた郵便送料値上げの都合上、郵送での総会案内が困難な状況になりつつあります。この時報をご覧になられた有機合成化学同窓会(有機同窓会・みどり会・PS 会)会員の皆様は、下記二次元コードより Mail アドレス等のご登録をいただけますようよろしくお願いいたします。



PVC・合成樹脂 コンパウンドメーカー

昭和化成工業株式会社



〒348-0038 埼玉県羽生市小松台 1-603-29
TEL 048-561-5221

高い技術力とノウハウが業界シェアトップレベルを支えています

昭和 53 年度卒 代表取締役社長 池本 俊一

工化会における取組み紹介 ～現役学生へのアプローチ～

工化会学生委員企画推進グループ
(高田、青山、梅垣、小出、戸田)

2023 年度より工化会として現役学生の皆さんとのいくつかのセッションに取り組んでいる。2 年目となる 2024 年度でこの活動の骨格がほぼ定まり、学生諸君の参加者も増えつつある状況となってきた。

この工化会という組織の予算を使わせていただいて推進するこの取組みについて、2 年目を終えるこの時点でひとつの総括として振り返ると同時に皆様へのご報告としたい。

まず、この工化時報をお読みの皆様はご理解いただけるものと思うが、工化会会員は卒業生が増えると同時に増加していくが、実際に活動に賛同し、参加いただける会員数が増加しているとは言い難い。これまで、桜理祭に合わせて実施されるホームカミングデーなどで卒業生（つまり工化会会員）とのつながりを構築するなどの取組みが行われてきた。

それに加えた新たな取組みとして、現役学生へ直接アプローチし、学生時代から工化会との接点を作ることで、工化会の認知度を向上し、卒業直後から現役学生へのサポートや OB とのつながりの必要性を理解いただけるような活動を目指して取り組んできた。

当初この取組みは、現役学生の中に「学生委員」を担っていただけるような方を見つけ出すことにあった。そのために名付けた私たちの名称は「学生委員企画推進グループ」。しかしながら、工化会の取り組みに学生時代から理解を示していただくには、学生諸君が認知できるそれなりの活動やメリットがなければ、彼らの大切な時間を削ってまで手伝ってくれるはずもない。これは至極当然と言える。

そこで、私たちは「現役学生にとって、意義のある活動とは何か？」を自らに問いながら、この 2 年間の活動を推進してきた。学生といっても幅広く、高校を卒業して間もない 1 年生からすでに研究生活に没頭している大学院修士課程や博士課程まである。そこで、バランスも考えて以下にある 3 つの活動を立ち上げてきた。

①「学年を超えたリアル交流会」(対象：全学年)

2024 年 6 月 29 日開催 学生 23 名参加

1 年生から大学院生まで各世代それぞれでの「お悩み」や「あったらいいな」という情報の共有をワールドカフェ形式で実施。

②「High Career Event」(対象：院生/院志望の学部生)

2024 年 11 月 23 日開催 学生 21 名参加

大学院を修了した卒業生を中心に、各業界をリードするような企業に勤務する先輩方を招聘し、大学院での研究や就職、社会に出てから感じたことや必要なことをパネルディスカッション形式で論議。その後懇親会で卒業生と現役学生間のネットワークを構築。

③「駿河台校舎交流会」(主対象：大学 1 年生)

2025 年 3 月 1 日開催 学生 14 名参加

2 年次から駿河台校舎へ移動する 1 年生を対象に、オリエンテーリング形式で駿河台地区の校舎や図書館、学食、おすすめランチを先輩学生と一緒にめぐり、先輩方とのコミュニケーションも含めて楽しんでいた。

このような活動を継続して行うことで、学生の皆さんに対してネットワーク構築の機会を提供するだけではなく、工化会の活動への理解を深めていただく機会を作り出すことで、将来的な工化会活動や各研究室での連携につながることを期待している。



←6 月
学年を超えた
リアル交流会
の様子



11 月→
High Career Event
での業界研究

多目的燃料添加剤の製造・販売

有限会社深澤化学研究所

〒194-0041 東京都町田市玉川学園 8 丁目 14-24

昭和 52 年卒 取締役副社長 深澤 豊 史

令和6年度 広報活動

今年度は、6月23日にオープンキャンパス駿河台、8月3日～4日にオープンキャンパス船橋を実施しました。昨年度まで実施していた附属校生のためのオープンキャンパスが無くなったため、実施回数は少なくなりましたが、1,925名の高校生や親御様に物質応用化学学科の展示へご参加いただくことができました。

今年の学科展示では、4つの学問領域である有機化学、無機化学、物理化学、生命科学に分け、研究室での研究を理解してもらえそうな展示を行いました。さらに、大学での学びに興味・関心を持ってもらうために実施している、模擬講義として2つの講義を実施しました。1つ目は、有機材料化学第一研究室の青柳隆夫先生による【医療を支える材料化学】、2つ目は、無機機能分析研究室の遠山岳史先生による【化粧品の機能と無機材料の役割】です。多くの方に受講いただき、大盛況でした。

今年の広報活動でも、学部生および大学院生の活躍が目立ちました。研究紹介だけでなく、大学生活についての質問も多く、明るく楽しいリアルな大学生活をイメージしてもらえたと思います。工化会の皆様には、学生が活躍できるようお力添えいただき、感謝申し上げます。



図1. オープンキャンパスでの学部生・大学院生の活躍と模擬講義

他にも、学部のオープンラボイベントとして【小学生のための夏休み「自由研究」教室の一環として、せっこう硬化体をデコしよう】も実施しました。小学生の頃から化学に関心を持ってもらう取組みで、こちらも大好評でした。

学科広報では、Instagram や Facebook、X などの SNS での情報公開を行っています。学科のイベントはもちろん、各研究室での成果報告など、様々な情報を公開しています。是非、たくさんアクセスして応援していただけますと幸いです。

令和 6 年度一日体験化学教室

広報委員会報告

令和 6 年度の一日体験化学教室を 7 月 28 日(日)に開催しました。本年度は、『健康を守る臨床検査の秘密』や『様々な色に輝く蛍光体 -無機蛍光材料の合成-』の新しい実験テーマを含む 12 テーマの実験で定員 95 名として参加希望者の募集を開始しました。昨年度と比べて定員数を大幅に増やしたにもかかわらず(昨年度の定員: 80 名)、学科ホームページや SNS などに告知後、申込締切日の 2 週間前には募集定員に達するほど多くの高校生に参加申し込みをして頂きましたので、継続して一日体験化学教室を開催していることが少しずつ実を結んできていると感じています。

当日は栗原主任からの開会挨拶後、体験化学実験の流れ、実験を安全に行うための注意事項などのガイダンスを行いました。その後、実験室や研究室に移動して各実験テーマの詳細な内容や方法の説明を受けた後、実験を体験して頂きました。また、希望者には、一日体験化学教室では紹介できなかった NMR や質量分析装置などの大型の分析装置を集約した材料創造研究センターなど、学科内の研究室・施設・設備見学をするツアーにご参加頂きました。本年度のアンケートでは『新たな知識を得ることができた』、『将来やりたいことにつながりそうな内容を学ぶことができた』など、高校では学ぶ機会がなかった高度な実験内容を理解できたことに対して評価してくれている意見が多かったです。

本年度も皆様方のご支援のお陰様をもちまして、無事一日体験化学教室を執り行うことができました。改めてお礼申し上げます。今後も化学の裾野を広げる活動を続けていきたいと考えています。



新 任 紹 介

化学工学研究室
助手 内藤 研
(令和3年博士前期課程修了)



令和6年4月付で助手に任ぜられました内藤研と申します。昨年度までは博士後期課程の学生として物質応用化学専攻に所属していましたが、退学して教員として身を置くことにいたしました。改めて教員側の立場として専門化学実験に携わると右も左もわからず、先生方のご厚意によりなんとか1年を乗り越えることができただけでした。研究では化学工学研究室に所属して、層状複水酸化物を塩基触媒として用いたグリーンケミストリーを中心に活動を行っています。まだまだ至らない点もあるかと思いますが、教育・研究ともにこれからも邁進してまいります。工化会の皆様には何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

新 任 紹 介

超分子化学研究室
助手 細谷 遥佑
(令和6年博士後期課程修了)



令和6年4月より助手に着任いたしました細谷遥佑と申します。学部卒業後、博士前期課程および後期課程へと進学し、令和6年3月に博士号を取得いたしました。長年学生として大学で過ごしてまいりましたが、立場が変わることで見える景色も大きく変わるものだと実感する日々を送っております。まだまだ分からないことも多く、戸惑うこともございますが、多くの先生方に支えていただきながら、何とかこの1年を乗り越えることができました。現在は、新しい有機分子変換手法の開発に関する研究を進めております。未熟な点多々ございますが、工化会の皆様にはご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和 6 年度 学会賞・学生の活動

本年度の物質応用化学科の学生・OB の学会賞受賞などの活躍をご紹介します。(集計期間：令和 6 年 2 月～令和 7 年 2 月)

【教員の部】

- ・大月 穰 (超分子) Indian Photobiology Society, Sir J. C. Bose Endowment Award, 2024
- ・向後光亨 (無機材) 材料技術研究協会討論会 2024、優秀口頭講演賞

【学生の部】

- ・中山大輝 (化工) 10th International Symposium on Molecular Thermodynamics and Molecular Simulation (MTMS '24), Student Poster Presentation Award
- ・塩田隼也 (無機分) 日本無機リン化学会、若手優秀研究発表賞
- ・富井律来 (超分子) 材料技術研究協会討論会 2024、優秀口頭講演賞
- ・櫛田大夢 (超分子) 材料技術研究協会討論会 2024、ゴールドポスター賞
- ・河村慶弥 (高工) (公社)日本化学会 第 14 回 CSJ 化学フェスタ 2024、優秀ポスター発表賞
- ・伊藤志帆 (物生) 第 10 回国際タウリン研究会日本部会学術集会、奨励賞
- ・田中二千華 (有合) 理工学部学術講演会、優秀発表賞(口頭)
- ・社藤夏海 (超分子) 理工学部学術講演会、優秀発表賞(ポスター)

令和 6 年度創設 80 周年記念賞受賞者

本年度は以下の 4 名です。おめでとうございます。今後の益々のご活躍をお祈りいたします。

奨学生支援：超分子化学研究室 相田 洸樹 さん

若手研究者支援：無機材料化学研究室 浅野 剛太 さん

若手研究者支援：有機材料化学研究室 平井 あや さん

若手研究者支援：有機材料化学研究室 吉田 匠 さん

栗田公夫先生、名誉教授称号授与

栗田公夫先生は、令和 6 年度名誉教授の称号を 11 月 8 日(金)付で授与され、12 月 10 日(火)に日本大学会館で授与式が行われました。

退任のごあいさつ

有機材料化学第一研究室
教授 青柳 隆夫



3月末日で退職し引き続き4月より特任教授として物質応用化学科の学部、大学院教育に携わらせて頂きます。よろしくお願い申し上げます。国立研究開発法人物質材料研究機構から異動し丸10年間に過ぎました。学科の先生方には大変お世話になり、何とか無事に過ごすことができました。厚く御礼申し上げます。時には大変な思いもしながらの研究者生活もこれで終わります。これまでの人生を振り返り、若い学生さんや卒業生に向けて自身が思うことを記したいと思います。本駄文が目にと留まりますことを願っております。少し自身の経歴を振り返ります。

大学を卒業後、民間企業に就職しました。3カ月間の研修の後、研究所に配属されて目にしたのは自身の未来の姿でした。5年後の姿、10年後の姿が目の前にあったのです。10年経てば副主任研究員、15年経てば主任研究員と。未来は未知のものと思っていましたので、人生が事前に分かってしまう怖さを初めて感ずることになりました。大学の先輩に相談し、民間の研究機関に異動することになりました。退職するときに、同期入社の方が俺はお前のようにしない、この会社において何が不満なんだと言われたのは今も記憶にあります。民間の研究機関では業務で進めた研究をまとめて論文博士を取得することができました。もちろん特許申請後です。当たり前ですが業務中に博士論文を書くことができずに、土曜、日曜を潰して出勤して作業をする日々が続き家族にも負担をかけました。学位取得後は大学での研究を志し、幸い私立医科大学の付属の研究施設に異動できました。臨床医の先生との交流もあり、自身のオリジナルの研究を立ち上げることができたことの喜びを感じるとともに、医学研究の大変さも身に染みしました。その後、国立大学の教授職につき、本格的に学生さんの指導や学位取得に向けての研究が始まりました。この大学では有機化学や材料化学の教育を担当し、自身の学生の時に受けた教育を思い出しながら、どうしたら理解が深まるか、試行錯誤しました。この時の経験は日大での有機化学の講義にも大いに役立ちました。7年間過ごした後、前職に異動し多くのアクティブな国内外の研究者とともに、また別のステージでの研究者生活が始まりました。ここでは国際会議や国際学会で発表する機会が数多くあり、各国を訪問し得難い多くの経験をすることができました。日

大に在職中、海外派遣研究員に採用して頂きましたが、この時に訪問したポーランド、チェコ、カナダの研究者はその時に交流がスタートした面々でした。その後、現短大教授の萩原先生と現工学部長の根本先生から声をかけて頂き、本学科に着任することができました。コロナの時のオンラインやオンデマンドの講義には流石に閉口しました。長い人生では予想もしないことが実際に起こりますが、これもその一例かと思えます。

配属された優秀な学生さん達のなかには他大学の大学院に進学を希望することもあり、これまでの経験を踏まえてアドバイスもしました。学生さん達はデータマシンではないし、兵隊でもありません。彼らが全員研究職に就くわけではないのですが、どんな仕事についても研究活動とは何かを身をもって知っていることは、少なくとも理系出身の社会人のリテラシーとして大変重要だと考えています。これまで、自身のテーマで博士号を取得した学生さんは18人おりました。彼らが私の思想を受け継いでくれていると確信しています。

今の若い人たちはZ世代として括られ、私が若かった時とは完全に時代が変わったという実感があります。一昨年、昨年と1年生の基礎有機化学を担当しましたが、できるだけ実験の実際を知ってもらおうと、自身の失敗談などを話しても、全く興味のない様子。講義にも無反応の彼らを見ていてどんな目的で進学したのか、大学教育に絶望しているのか、私の教え方が悪いのか自問しました。失敗を恐れ、目立つことを恐れ、いつも集団の中に隠れ、嵐が過ぎることを待つ姿勢。タイパ、コスバが行動の物差しとなっている彼らは、作った時間を自己研鑽に充てているのでしょうか。たくさん失敗しても生きて行けます。日本の社会はそんなに冷たくありません。自信を持って言えます、65歳の私は体験しました。どんどん挑戦して欲しいし、夢を持って前向きに進んで欲しいと思います。東京都の20代のパスポートの保有率が25%とは、驚くに値します。海外に行くことが現実逃避なのか、言葉と食事が不安なところには行かないのか。蛸壺に入って安全に守られた環境からは何も得られません。海外にどんどん出て行って、失敗も含めて多くの経験を積んで、困難な社会に立ち向かうという気概を持つ学生さんが増えることを期待します。

退職される助手・臨時職員の皆様

- ・ 叶 洪 先生（無機機能分析研究室所属）2025 年 3 月退職
- ・ 松井 樹利亜 さん（学科事務室所属）2024 年 6 月退職
- ・ 藤坂 唯 さん（学科事務室所属）2024 年 7 月退職
- ・ 能手 将理 さん（学科事務室所属）2025 年 3 月退職
- ・ 榮田 結衣 さん（短期大学部事務室）2025 年 3 月退職

令和 6 年度工化会事業報告

令和 6 年度工化会通常総会は、駿河台校舎 1 号館 6 階 CST ホールにて令和 6 年 6 月 1 日(土)15 時から役員・会員 394 名(内委任状 302 名)の出席を得て開催されました。総会では、庶務・会員・会報各委員会の令和 5 年度事業報告案、会計決算報告案および監査報告ならびに令和 6 年度事業計画案および会計予算案、役員の改選案、理工学部校友会個人表彰の推薦案、会則改正についての審議を行い、これらを承認しました。また、工化記念基金委員会の事業報告・事業計画、80 周年記念基金の決算報告・監査報告・予算報告を行いました。通常総会終了後、1 号館 2 階カフェテリアで懇親会を催しました。今年度の懇親会には昭和 58～62 年に卒業された会員をホームカミングデーとしてご招待し、盛会のうちにお開きとなりました。

令和 6 年度事業として、工化会ホームページの運用と新入生への記念品贈呈および例年通りに学科主催行事の後援、工化会賞の授与、工化会主催の講演会の開催、工化時報の発行・発送が承認されました。また、学生が在学中に工化会との繋がりを持てるよう令和 5 年度から始まりました学生と卒業生との交流の場は「工化会学生メンバー交流会 2024」として 3 回開催することが承認されました。

工化会賞は卒業時に、在学時の学術・文化等において顕著な結果を残し、工化会の名誉を高めるに貢献した学生を工化会として表彰するものですが、本年度も厳正な選考を行い、受賞者合計 31 名には、3 月 25 日(火)に大学院・学部・短大における学位記伝達式の際に賞状と記念品を贈り、その栄誉を讃えました。また、本学科の創設 80 周年記念事業として制定された若手研究者支援(大学院博士後期課程在学者が対象で当該年度の学位修得者)、奨学生支援(大学院博士前期課程進学予定の成績優秀者で特待生を除く)、奨励賞(大学院・学部・短大の修了・卒業生の中で高難易度の資格免状等を取得、または好成績を収めた学生が対象)については、若手研究者支援は 3 名、奨学生支援は 1 名、奨励賞については大学院 1 名・学部 9 名・短大該当者なしに対して支援・授与が行われました。

令和 6 年度の工化会予算についてですが、本会では予算を経常会計予算と特別会計予算の 2 種類を編成しており、令和 6 年度経常会計予算は総額 565.1 万円で、その内訳は学生支援事業費が 77.0 万円、各種講演会・行事支援事業費として 64.1 万円、卒業生支援事業費は 100.2 万円、その他 55.0 万円、次年度繰越金が 268.8 万円であり、特別会計予算は総額 583.0 万円で、内訳は卒業生支援事業費に 180.1 万円、会費・寄付金郵便振替対応業務として 4.0 万円、その他に 0.1 万

円、次年度繰越金として398.8万円計上しています。なお令和6年度の会員諸氏による会費の納入状況は、本号の会費納入者氏名一覧をご覧ください。

令和6年度の工化会主催事業ならびに後援事業の概要を以下に報告します。

① 4月10日(水)

工化時報第40号 10,585通発送。

② 4月13日(土)

学科新入生オリエンテーションで新入生への保護メガネ贈呈。

③ 4月27日(土) 15:00～17:00

第1回役員会：役員62名出席(内委任状25名)。

④ 6月1日(土) 15:00～16:30

通常総会：会員394名出席(内委任状302名)。

⑤ 6月23日(日)

オープンキャンパス(駿河台)：対面で311名の高校生が来場。

⑥ 6月29日(土)

第1回工化会学生メンバー交流会2024：学生23名、役員・会員18名が参加。

⑦ 7月28日(日)

令和6年度日本大学理工学部一日体験化学教室：高校生82名が参加。

⑧ 8月3日(土)、4日(日)

オープンキャンパス(船橋)2024：保護者含めて高校生1,442名が参加。

⑨ 9月7日(土) 15:00～17:00

第2回役員会：役員69名出席(内委任状38名)。

⑩ 11月23日(土) 16:00～17:00

第2回工化会学生メンバー交流会2024：学生21名、役員・会員24名が参加。

⑪ 11月28日(木) 13:00～15:00

講演会「OBによる現役学生のための就活セミナー」：学生178名が参加。

⑫ 12月5日(木) 13:00～17:00

2024年度夢実現プロジェクト：企業46社、200超の学生が参加。

⑬ 1月31日(金) 18:30～19:15

工化会賞選考委員会・工化記念基金評価部会：委員22名出席(内委任状8名)。

⑭ 2月16日(日)、23日(日)

第18回合格者相談会：16日(日)：1組2名、23日(日)：2組2名、両日で3組4名が参加。

⑮ 3月1日(土)

第3回工化会学生メンバー交流会2024：学生14名、役員・会員10名が参加。

⑯ 3月25日(火)

令和6年度物質応用化学専攻・同学科ならびに短大ものづくり・サイエンス総合学科応用化学分野学位記伝達式。

⑰ 3月25日(水)

工化時報第41号13,500部発行。

以上 庶務委員会

会費,寄付金納入者名簿

(令和 7 年 2 月 1 日現在)

昭和19年卒	才木 義夫	神保 進	牛山 恵次	新藤 豊彦
脇 幹夫	齋藤 二郎	長友 良久	沖本 武旦	田中 敦
日暮 忠弘	田口 稔孫	清水 大三	清水 博太郎	菰原 洋二
昭和21年卒	中島 和紀	宮沢 武次	飯田 忠雄	花井 秀之
石川 幸一	吉田 靖	昭和38年卒	高橋 志郎	八幡 順一
昭和25年卒	猿渡 義男	大野 維夫	武井 秀彦	小栗 勝治
吉田 耕一	加賀 勘之助	木村 次雄	高間 伸一	萩原 喜代治
昭和26年卒	守屋 伊佐雄	久喜 徹	三谷 治郎	昭和45年卒
垣内 宏	昭和34年卒	小松 洋	飯原 打越	小林 満
鈴木 信夫	大久保 勝弘	栗田 公夫	土田 紘一	篠崎 勝彦
昭和27年卒	加藤 嘉之	永田 正巳	飯野 宏治	滝戸 俊夫
柏木 治彦	藤森 信正	長谷川 實	丹野 隆善	辰市 祐久
近藤 住吉	松浦 豊紀	原田 文雄	西脇 鉄雄	中澤 之博
東 昭	山谷 保二	宮崎 興三郎	昭和41年卒	永田 勝彦
高田 芳行	横川 徹也	渡部 長幸	石毛 哲男	服部 正隆
昭和28年卒	昆野 澄夫	原 章	中澤 豊	平塚 良一
鈴木 一成	昭和35年卒	長嶋 潜	藤池 誠治	宮川 晃一
仁禮 誠二	青木 弘	藤掛 省吾	真下 清	望月 昭宏
森 不二男	石原 義弘	藤野 裕	宮城 晃	森崎 正美
佐藤 正巳	笠井 啓也	小島 辰夫	大内 邦夫	加村 尚喜
吉川 和夫	金澤 成光	白石 益郎	沢田 金吾	瀬戸 博
田村 佐重	篠 大太郎	杉田 松生	館 敏夫	寺田 高德
昭和29年卒	瀧澤 文男	昭和39年卒	彦田 一夫	土田 久
浅川 和昭	東海林 栄	秋本 幹夫	玉應 亨三	永島 一男
井上 秀雄	野島 秀次郎	梅原 達朗	長濱 直	宮内 和司
嶋田 稔	原 幹夫	金田 紘一	塚田 悦造	佐藤 宗衛
寺島 昌訓	町田 収	神谷 中	昭和42年卒	昭和46年卒
長山 勝政	吉岡 靖隆	渡辺 久和	荒川 直弘	神崎 良一
八田 肇	渡邊 高章	北本 義征	今田 雅躬	川島 英郎
米山 廣保	倉形 邦英	児玉 義宏	岡見 宏道	菊田 茂
昭和30年卒	島田 洋子	斎藤 伸之	鈴木 啓輔	小谷 将彦
綾野 怜	安達 昭郎	斉藤 博之	板木 勝己	齋藤 政久
植竹 和也	香春 陸夫	瀬尾 宏	中井 忠男	杉田 康一
近藤 練太郎	定方 聰博	竹石 肇	長谷川 元保	鈴木 重衛
梶山 清一	須藤 隆司	武田 幸久	古阪 一昭	吉広 邦夫
寺島 賢治	関口 勝	中田 博	渡部 高尚	高橋 秀樹
昭和31年卒	昭和36年卒	仲野 一次郎	加藤 勇	丹野 幸久
青木 直三郎	石井 照明	原 襄輔	佐藤 馨	冬室 誠
伊藤 博国	小川 昌太郎	堀 是治	田中 秀也	牧原 信太郎
神戸 徳蔵	仮戸 斌	田幡 安郎	富田 潤一	昭和47年卒
小松原 彬	木佐貫 秀彌	山崎 恭弘	山崎 博	小町 勉
田中 宏之	木村 繁夫	和田 高伸	金塚 美喜男	駒屋 伸雄
高木 弦	佐藤 進	渡辺 進作	豊田 文江	齊藤 菊夫
高橋 一正	斯波 弘行	北村 隆	昭和43年卒	丹呉 秀博
横山 富雄	炭田 幸宏	小屋原 英雄	浅井 保雄	鶴 達郎
石塚 和三	高柳 裕臣	鈴木 良治	宇智田 俊一郎	何木 正芳
柿澤 正彦	野村 友次	田中 誠悦	海上 幸三	藤木 孝人
綱島 康晴	桔梗 隆	高松 武生	村岡 研一	松本 謙
田畑 調友	小串 照宗	富士 光男	山梨 乾一	森 伸一
昭和32年卒	宇賀治 正名	山田 稔	梅北 司	昭和48年卒
竹原 晃	村田 敏弘	斉藤 恭一郎	松村 清利	櫻川 昭雄
東海林 正	昭和37年卒	石川 和正	北村 正孝	渋谷 修
依田 恵市	伊藤 成利	斉藤 守園	佐藤 哲	戸早 哲太郎
池島 敬宜	奥山 正之	奈良木 亨丞	進藤 宣昭	中島 慎司
笹原 孝	梶山 秀矩	野口 文雄	昭和44年卒	中村 宗光
阿久津 芳彦	庄司 翠	橋本 信之	石井 和夫	長谷川 一夫
網代 良太郎	津崎 信隆	昭和40年卒	井上 隆	平林 明夫
昭和33年卒	廣瀬 丈久	有田 喜一	大橋 正宣	山中 操
柏崎 敏郎	功 丸林	稲葉 清彦	北島 徹夫	坂口 信昭
熊谷 祐一	石岡 龍右	上田 輝世	桜井 浩平	関口 優紀

丹呉 秀博	前川 幸生	末澤 二郎	赤嶺 直美	平成20年卒
鶴 達郎	山田 勝彦	昭和58年卒	高田 昌子	小出 優一郎
何木 正芳	山田 忠雄	岩崎 好高	坂田 純	平成21年卒
藤木 孝人	生方 正之	飯田 隆久	平成4年卒	佐藤 克哉
森 伸一	新国 貞幸	栗原 清文	桐山 崇一	原 秀太
昭和48年卒	昭和53年卒	小林 洋明	齋藤 利文	吉田 隼人
加来 文隆	伊藤 俊広	田村 精一	佐藤 裕司	平成22年卒
櫻川 昭雄	奥田 直史	竹村 忠憲	土井 康正	掛川 瞳
重藤 峻一	小林 康秀	高山 利治	林 由浩	高木 晃一
渋谷 修	諏訪 僚一	高田 千春	松田 和夫	平成23年卒
瀧口 誠典	高木 英行	長 茂輝	関根 智一	春日 龍史
戸早 哲太郎	原田 哲也	谷田貝 仁恵	平成5年卒	鈴木 利彦
中島 慎司	星原 晃	原川 優子	小泉 公志郎	平成24年卒
中村 宗光	堀木 清二	前田 篤	米田 哲也	工藤 慎平
長谷川 一夫	黒澤 隼二	矢島 浩之	平成6年卒	中山 麗
平林 明夫	昭和54年卒	山田 美穂子	小池 芳暁	平戸 祐喜
山中 操	浅野 祥司	谷田貝 隆	佐々木 典世	平成25年卒
渡辺 明典	小笠原 幸道	久保田 博明	石黒 香織	伊東 哲博
大高 由輝	太田 延幸	寺嶋 一彦	遠山 岳史	金子 剛大
川津 義人	小坂 佳則	竹内 功	平成7年卒	近藤 駿平
坂口 信昭	清水 尚登	昭和59年卒	岡田 賢識	田村 高大
藤井 克彦	椎野 宏明	大坪 利彰	奥村 佳代子	早川 麻美子
昭和49年卒	下田 清隆	小峰 昌弘	谷合 哲行	松山 史典
青木 壮慈朗	杉山 文敏	清水 繁	平成8年卒	村松 優
飯塚 修一	中村 眞理子	小嶋 千津美	土山 人一	平成26年卒
菅野 昭	服部 洋一	中井 佳子	仁平 勉	野中 裕名
久保 隆	藤生 康彦	昭和60年卒	原野 満実子	工藤 絵美
小林 正男	堀田 稔	太島 佐知子	平成9年卒	平成27年卒
佐藤 憲一	目良 昌三	石見 勝洋	浮谷 基彦	南澤 宏湖
佐藤 哲	谷藤 善美	満田 泰志	木田 秀一	横地 慶亮
佐藤 芳明	横森 英俊	矢澤 聡隆	谷川 実	杉浦 裕昌
澤口 孝志	坂本 恵一	本澤 正博	林 秀憲	井上 悦宏
末木 康行	坂本 信子	高橋 宏和	平成10年卒	平成28年卒
湯川 古美	昭和55年卒	昭和61年卒	武田 誠一郎	野田 和彦
野澤 美文	小笠原 一恵	片桐 正志	島村 寛人	吉岡 英俊
野中 昭二	小笠原 守人	小嶋 芳行	荒井 滋人	平成29年卒
野原 孝司	金子 堅司	那賀 恵美子	伊掛 浩輝	岡部 紗千
元木 英二	砂端 栄治	福元 俊之	横田 昇平	向後 光亨
山崎 純一	丸山 博秀	小林 義幸	眞智 綱代	橋本 雅弘
南 茂樹	森 弘通	昭和62年卒	平成11年卒	平成30年卒
昭和50年卒	波岡 宣彦	加藤 慎次郎	浅野 賢一	岡野 貴洋
上田 賢二	昭和56年卒	勝又 雅子	樋口 孝夫	森 春果
上條 治夫	池田 実	幾留 孝司	平野 壮哉	平成31年卒
小菅 信博	伊藤 保雄	清水 恵樹	松田 弘幸	小池 祥子
汐澤 日出夫	葛 蔵造	昭和63年卒	平成12年卒	永井 宏明
神保 尚幸	後藤 真一	石井 睦子	山崎 章	令和5年卒
野原 正男	熊谷 一弘	乙川 千博	伊掛 美里	中山 大輝
服部 信和	植松 烈平	三井 宏	戸田 篤志	教職員
中野 功	大沼 明	村山 竜一	亀田 博之	青山 忠
末森 博文	三橋 昭男	吉村 美恵子	平成13年卒	西村 克史
昭和51年卒	有川 俊一	鎌田 哲彰	怡土 良信	櫛 泰典
内野 好夫	矢作 妙子	中道 幹芳	生田目 紘次	梅垣 哲士
重盛 正男	木屋 幸蔵	平成元年卒	藤田 尚之	鈴木 佑典
三井 正二	昭和57年卒	磯崎 誠也	平成14年卒	松下 祥子
前田 勉	大内 高弥	木方 眞理子	角田 雄亮	工藤 雅孝
昭和52年卒	黒坂 和弥	黒田 美和子	横田 美紗子	
大窪 峰裕	井上 みどり	丸山 浩司	吉川 賢治	
栗村 嘉明	小暮 勝彦	佐野 伸一	藤代 昭子	
荻原 謙二	小椋 幸夫	和田 香織	平成15年卒	
斉藤 孝	中村 明裕	平成2年卒	堀川 達哉	
最勝寺 公英	野澤 昌史	石川 恵子	平成16年卒	561名
酒井 久男	久松 美樹	小川 貴子	石井 完	
志田 邦昭	三根 郁夫	上條 潤	石川 英章	
瀬戸 秀明	伊藤 和宏	平成3年卒	平成17年卒	
土岐 正史	内田 陽子	大山 直人	赤澤 寛行	
深澤 豊史	桑折 敬子	川野辺 晃生	平成19年卒	
古越 宣正	山浦 信介	竹内 秀光	伊藤 拓哉	
古橋 雄二	佐藤 慎一	穴山 正之		

編集後記

工化時報 41 号も、みなさまのご協力のもと無事に発行することができました。ご寄稿いただいた方々、広告掲載にご協力いただいたみなさまに心より感謝申し上げます。

今年は辰年に続く「巳年」。へびは知恵や再生の象徴とされ、変化と成長の年とも言われます。日本大学理工学部と短期大学部(船橋校舎)も再生と成長の年とすべく、みんなで日々挑戦をして参ります。物質応用化学科の学生並びに卒業生が各分野で活躍され新たな挑戦を続けている姿を目にし、頼もしく感じるとともに明るい未来を確信致します。

卒業生と在校生・教職員とのつながりをより深める場として、本誌を今後も充実させていきたいと考えております。次号に向けても、近況報告やご意見をお寄せいただければ幸いです。春の訪れとともに、新たな可能性が広がる季節となりました。みなさまのご健康とさらなるご活躍をお祈りしつつ、本号の編集を終えたいと思います。(会報委員 西村克史)

お知らせ

令和7年度の行事予定

6/7(土) 15:00～ 工化会通常総会 8号館 843 講義室

16:30～ 懇親会・ホームカミングデー

詳細は工化会ホームページにてお知らせします

8/2(土)、8/3(日) CST オープンキャンパス(船橋)2025

10/12(日) 理工学部ホームカミングデー(駿河台校舎)

連絡先

連絡先: 工化会ホームページをご覧ください

- ・住所変更に関するお問合せ

<https://koukakai.org/address/>

- ・住所変更以外のお問合せ

<https://koukakai.org/contact/>, FAX: 03-3293-7572



工化会ホームページ

広告募集

工化時報では会社広告を募集しています。掲載の詳細につきましては会報委員会までお問い合わせください。

掲 載 料 1 件 : 10,000 円

発行所

東京都千代田区神田駿河台1-8

日本大学理工学部工化会会報委員会

西村克史, 谷川 実, 遠山岳史, 永島一男, 萩原俊紀, 米田哲也

学科ホームページ, <https://www.chem.cst.nihon-u.ac.jp/index.html>

工化会ホームページ, <https://koukakai.org/>